

日本YMCA同盟

THE
YMCA

The Young Men's Christian Association News



No.833 2024

2024年1月1日発行（毎月1日発行）
1947年10月27日 第三種郵便物認可
本体価格45円（外税）（送料63円）
発行／公益財団法人 日本YMCA同盟
〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町2番11号
Tel 03-5367-6640 Fax 03-5367-6641
URL : <https://www.ymcajapan.org/>
発行人／田口 努 編集人／横山 由利亜



OPINION

YMCAは若者を育て 若者は社会を築っていく

アジア・太平洋YMCA同盟 (APAY) マリア・クリスティーナ・ミランダ

アジア・太平洋地域には現在約7億人の青少年がおり、これは世界の青少年の60%に相当します。にもかかわらず、この地域の多くの青少年たちは、紛争や貧困、気候変動、差別、人権や基本的自由の剥奪、教育や医療の不足、失業、デジタル格差といった数々の深刻な問題に直面しています。さらに青少年たちは社会の意思決定プロセスに関わる機会もなく、社会の周縁部に追いやられています。

2020年からの新型コロナウイルスは、世界中の人びとの生活を一変させ、その影響は多方面に及びました。中でもアジア太平洋地域の青少年はその混乱の影響を大きく受けており、今も多くの青少年が教育や医療、福祉、安定した雇用から取り残されたままになっています。こうした状況は、青少年がその能力を最大限に伸ばして地域社会の発展に貢献することを妨げています。

このような中でYMCAは、地域社会の問題について青少年とともに考え、彼ら自身が地域社会を変革していくプロセスに関わっていけるよう、その育成に意識的に取り組まなければなりません。彼らの能力を育て、地域社会における行動を促進していく。そういう場を提供することが不可欠です。

コロナ禍によってプログラムのオンライン化が進みましたが、YMCAは、精神的な豊かさやバランスのとれた価値観をもつ青少年を育てること、責任をもって市民社会を率いていく能力ある青少年を育成することに変わりはありません。社会問題について学び、社会に対する責任感を養い、指導力や組織能力を高めていくこと。YMCAはいつの時代も、このようにして地域に貢献する青少年を育て、地域社会を変えてきました。

今日、世界が直面する問題はより大きく、深刻に、複雑になっていますが、YMCAは変わらずに青少年をエンパワーメントすることによって社会を変革していかねばなりません。気候変動や紛争など、その問題の大きさに無力感を抱く青少年もいますが、私は彼らに「どんなに小さくてもアクションを起こしてみよう」と伝えています。その小さな一歩を世界の仲間とつなげていけば大きなムーブメントになります。社会は変えられる。青少年には力があると。

社会が持続可能な発展を遂げるためには、社会の意思決定のプロセスに若者を参加させ、その責任を共有する必要があります。まさに「いかなる施策も、当事者の関与なしに決定されるべきではない。(Nothing about us, without us.)」のです。

YMCAには、青少年が自らの可能性を最大限に発揮して人生を生き、最大限に社会に参画できるよう青少年を力づけ、エンパワーしていく責任があります。彼らを単なるサービスの受け手としてみてはいけません。青少年は、社会の発展のために貢献することができる立派な市民であり、社会的行為者です。そして何より、彼らが社会を変革していく過程で発揮するエネルギー、創造性、ダイナミズムこそが、YMCAという団体の存在に生命と意義を与え続けるものだと、私は確信しています。（和訳／まとめ：編集部）

Maria Cristina Miranda

フィリピン大学ディリマン校でコミュニティ開発の修士号取得。フィリピンのウェスリアン大学講師などを経てアジア・太平洋YMCA同盟 (APAY) 執行委員 (2004～2011年)。世界YMCA同盟執行委員 (2006～2010年)。2015年からAPAY事務局長として、青少年の育成、気候変動、災害対策に取り組む。

パレスチナの平和願い オンライン祈祷会 東エルサレムYMCAも参加 現地の声届ける

軍事侵攻が続くパレスチナの平和を願って12月5日、日本各地のYMCAがオンラインで集って祈祷会を開催し、150人余が参加しました。祈祷会には、パレスチナ自治区内で活動している東エルサレムYMCAのピーター・ナシル総主事も参加。30分にわたり現地の惨状を訴えました。



350平方キロメートルの領土に200万人が住むガザでは、逃げる場所もなく、電気も水も止められたまま爆撃にさらされ、「たくさんの人が亡くなるのを見ているしかない」。「おびえる子どもたちに、かける言葉も見つからない」「私たちにも神から与えられた命がある。生きる権利を認めてほしい。隣人愛のある世界を望みます」。悲痛な言葉の数々が語られました。

またメッセージを語られた有住航牧師(日本キリスト教団下落合教会、学生YMCAシニア)は、2006年にパレスチナを訪問し、現地YWCAとYMCAによる「ジャーニー・フォー・ジャスティス」に参加。各国ユースと共にパレスチナをバスで巡る中で、イスラエルによる軍事支配の現実を目の当たりにした経験を話した上で、1948年の「イスラエル国家設立」は植民地主義的侵略として行われ、先住民であるパレスチナ人にとっては軍事占領下におかれる結果となったと指摘。「ガザでの虐殺と人権侵害は、今に始まったことではありません。この歴史から目を背けることなく、パレスチナの地に平和を実現するには何が必要なのか、現地の声に耳を澄ませて話し合っていく必要があります」と呼びかけました。



日本のYMCAはパレスチナのYMCAと長年にわたる交流があることから、引き続き勉強会や各種イベントなどを行い、一日も早い平和に向けて心を合わせていきます。

*パレスチナ関連の情報は下記サイトで随時お知らせしています。
<https://www.ymcajapan.org/ymca-works-for-peace-20231007/>



“地域社会の変革者”を目指して研修中 「世界YMCAチェンジ・エージェント」

「YMCAチェンジ・エージェント(=変革者)」は、社会課題に取り組むユースリーダーを育てるための研修プログラムです。主催は世界YMCA同盟。対象は18歳～30歳未満でYMCA経験3年以上のユース。毎回世界中から希望者を募って開催されています。受講期間は約1年半。オンラインの講義やディスカッションのほか対面でのイベントも織り交ぜながら、実践力のあるユースリーダーを養成しています。2013年の開始以来これまでに67の国と地域から約800人が卒業。日本からは13人が卒業しました。今期は57カ国から120人が選ばれ、すでに4月から受講中で、日本からは横浜YMCA職員の坂地みずきさんと、大阪YMCA職員の吉岡祐理さんの2人が参加。日々の業務の合間を縫って毎月20時間ほどのオンライン講義を受講し、レポート作成など課題に取り組んでいます。今後は自主研究やフィールドワークなども重ね、来年7月には各国のチェンジ・エージェントが対面で集合する予定です。

YMCAは若者を育て、育てた若者が社会を変革していくとも言われます。地球規模の課題が山積する中で、社会を変える力をもつユースリーダーの育成は急務です。意欲ある若者たちが互いに刺激し合いながら成長できるよう、世界中のYMCAが応援しています。



坂地みずきさん
(横浜YMCA職員)



吉岡 祐理さん
(大阪YMCA職員)

ヨーロッパにおける ウクライナ避難者支援の近況



ヨーロッパYMCA同盟のホアン・イグレスシアス総主事が11月22日、日本のYMCAスタッフにオンラインで、ヨーロッパにおけるウクライナ避難者支援活動について報告するとともに、平和教育への取り組みについて紹介しました。



難民支援センターでの再就職支援の様子



9月にはエルサレムで、ウクライナやコソボなど紛争当事国の若者30人が、和解に向けて話し合いました。

2022年2月26日の軍事侵攻以来、今も約600万人のウクライナ人が避難を余儀なくされています。長期化する避難生活では、避難民がそのコミュニティに溶け込んで新たな生活を再建できるかどうか重要な課題になります。各国のYMCAは就労支援や語学教育、心身の健康プログラムや交流キャンプなど、その得意分野を活かしてコミュニティの架け橋となるよう尽力。中でもルーマニアとモルドバの国境付近には企業の協賛を得て難民支援センターを設置し、法律相談や子どもの教育支援なども行っています。これまでに提供したプロジェクトは134種類。約36万人に支援を届けており、寄附金は累計1237万ユーロにのびました。日本の皆さんは、寄附に協力くださっただけでなく、避難民のために迅速に支援活動をされています。世界のYMCAの連帯に心から感謝しています。

平和教育「ルーツ・フォー・ピース」

ヨーロッパYMCA同盟には、ウクライナだけでなくロシア、ベラルーシ、コソボ、アルメニアなど36カ国が加盟しています。歴史的にも紛争が絶えないヨーロッパ諸国のYMCAでは、差別や憎しみによる悲劇の連鎖を断ち切るため、15年前から平和教育プログラム「YMCAルーツ・フォー・ピー

ス」を実施。国際交流キャンプや紛争解決トレーニングなどに力を入れています。今夏の交流キャンプには1000人が参加したほか、9月にはエルサレムで、ウクライナやコソボなど紛争当事国の若者30人が和解のトレーニングを受けています。

YMCAはその正章に「すべての人を一つにしてください」という聖句を掲げており、1948年に国連が人権宣言を採択する前からずっと、人の尊厳と平和を唱えてきました。紛争の解決と和解は、簡単なことではありません。しかしどんなに困難でもYMCAは、和解と平和への道を進まなければなりません。世界のYMCAに連なる皆さんは、平和を築くリーダーであってほしい。それぞれのコミュニティで、このすばらしいミッションに向かってこれからも共に行動していきましょう。



引き続き、ご支援ご協力をお願いします。

- ゆうちょ銀行 振替口座(振替貯金)
00190-6-464236 日本YMCA同盟地域国際募金口
- クレジットカード・銀行振込は下記サイトから
<https://srv.asp-bridge.net/ymca/index/>

